

錦二丁目のまちづくりと

まちの運営をサポートする

錦二丁目エリアマネジメント株式会社

魅力的なまちづくりを

次世代へとつなげていく

仕組み化に取り組む

代表取締役の名畑恵さんに

お話を伺いました。

錦二丁目エリアマネジメント株式会社

代表取締役・NABATA MEGUMI

名畑 恵さん

Company Data | 会社概要

錦二丁目エリアマネジメント株式会社

[創業] 2018年

[所在地] 名古屋市中区錦2丁目13-1

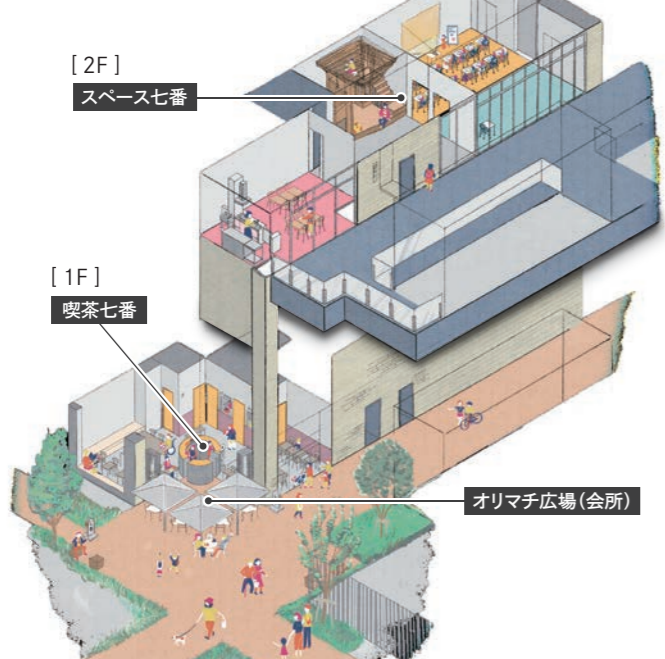
[TEL] 052-201-9878

[URL] <http://nishiki2areamanagement.co.jp/>

[事業内容] まちの拠点「喫茶/スペース七番」運営、
公共空間の活用と維持管理、既存空間の
リノベーション支援事業、コミュニティ支援事業



地域とともに 新しいまちの文化を育む



新築された高層マンションの足元につくられた「オリヤマ広場」。マンションの1、2階部分に入っている、店舗、会議室などのレンタルスペース「スペース七番」やカフェ「喫茶七番」などを当社が運営しています。

まちづくりの ファシリテーターとして 地域の声を形にする

もともと錦二丁目は活気のある商業地でしたが、繊維産業の衰退や人口減少とともにまち全体が賑わいを失いつつありました。こうした危機意識のもと、2004年に企業を含む地元住民で「錦二丁目まちづくり協議会」が設立され、「錦二丁目まちづくり構想2011・2030」の策定に取り組みました。そしてこの構想の実現に向け、まちを持続的に運営する仕組みとして2018年3月、当社の設立にいたりました。

私はNPO法人のスタッフとして錦二丁目のまちづくりをサポートしてきたのが縁で、当社の初代代表に就任しました。まちの人たちの声を集約・整理して事業化したことを考えると、強いリーダーシップを発揮するのではなく、御用聞きタイプの私が代表になって良かった

と思っています。とはいえ、地域振興の観点で言えば、5年ぐらいの間隔とともに働く若手に事業が継承され、常に若手にチャンスが巡っていくのが理想です。

当社の事業目的は、地域住民とともにまちの価値を高める事業を行ない、コミュニティや賑わいづくりに貢献して多様な人材の交流を生み出し、そこで得た利益をより良いまちづくりに還元することにあります。そのため、まちづくりに関して地域の人々からの発言は必ず記録し、冊子やフリーペーパーに掲載して発信するように心掛けています。一緒にまちづくりをしている意識付けになるとともに、認識の違いによる揉め事を無くすことにもつながるからです。また、意見が対立してまとめることが難しいときには、対立しているのではなく、長期的な将来像に向けた物事の優先順位が異なるだけだと考え、視野を拡げて互いの位置づけを考えながら進めます。

社名の由来 /

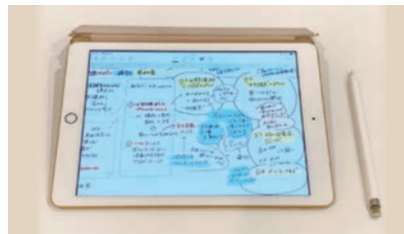
NISHIKI2

錦二丁目エリアマネジメント株式会社

企業として錦二丁目エリアの運営をお手伝いし、マネジメントしていくことをそのまま社名にしました。社名にまちの名前である「錦二丁目」を掲げている通り、錦二丁目に関わる人たちとともにより良い錦二丁目のまちづくりを目指しています。

愛用のアイテム紹介 /

iPad & Apple Pencil



地域の皆さんと意見交換する際に、意見をメモしたり、その人の簡単な似顔絵を描いたりするために使っています。顔を覚えることができる上に、誰がどのような発言をしたのか明確な記録を残すのに役立っています。

仕事で大切にしていることは /

名古屋都心が
ふるさとになる
まちづくり

近年、錦二丁目はオフィス街として発展を遂げました。しかし今後は、職住融合の豊かな街を目指して、都市部でありながら心穏やかに暮らし、働くこともできる、愛着が湧くまちにしていければと考えています。



エヌツーラボ
N2 / LAB

企業や行政、大学など様々な主体が関わり、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想・研究・共創を進める実験の場。国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受けて実施しています。



ゑびす菜園

錦二丁目内にあるビルの屋上を活用した農業施設。当社を含めた4社連携による次世代人工土壌を用いた都市型農福連携実証事業で、障がい者就労移行支援の一環として栽培した野菜を近隣の飲食店などへ販売しています。



長者町カルタ

地域住民の皆さまへの取材や資料提供によって2010年に完成したカルタ。読み札には語り手の生きた言葉を、絵札にはエピソードとの関連が深い絵柄を採用しており、喫茶七番でも遊んでいただけます。



みちにわSDGsマルシェ

なごや環境大学との共同事業「持続可能なまちづくりプロジェクト」の一環として、錦二丁目内の道路を活用し、SDGsが描く未来の暮らしを体感できるマルシェを2020年から毎年11月に開催しています。

人が気軽に集える 拠点を復活させ、 まちを活性化させる



まちの資源を活かし、
面白くて活気あふれる
まちへと変貌させる

地域、再開発事業者、名古屋市が一体となつてまちづくりを進め、2022年3月に誰もが気軽に集える200㎡の広場を足元に有した30階建て高層マンションが錦二丁目に完成しました。広場は「オリマチ広場」と言い、かつての共有空間「会所」の現代版として整備しました。会所は江戸時代に名古屋の城下町が碁盤目状に町割りされた際、建物などの裏に設けられた空間で、神社仏閣が配されていました。今でも錦二丁目の16区画内に5つの会所が寺社として残っています。当社はそうした会所を再開発を機に復活させ、平日はテラスとして開放するほか、週末には花や手作り品を販売するマルシェなどのイベントを開催・運営しています。広場から路地が四方に延びて道路へとつながるため、周辺のオフィス街からもアクセスしやすく、大規模災害による帰宅困難者の一時避難場所にも指定されています。

とで、ペビーカーを押す人やベットを連れて歩く人をよく見かけるようになりました。以前は地域にわずかだった小学生も増えて、登校する姿を見ると思わず感動してしまいます。

2022年6月には、前述の高層マンションの1、2階部分に当社運営の「喫茶七番」「スペース七番」がオープンしました。「喫茶七番」は、コーヒーや軽食とともに一息つくことができる場所です。日常的な交流や情報交換の場としてだけでなく、様々な情報が得られる場へと育てていく予定です。「スペース七番」はラウンジ空間を兼ね備えた貸しスペースで、会議室やキッチン付きスタジオがあり、料理教室やカルチャー関連のイベントなどに地域の方はもちろん、一般の方にも有料でお使いいただくことができます。また、新しい試みをしたい若者やおもしろい店舗が参入しやすいように1、2階には10坪の小規模物件を4軒購入し、貸し出しています。小規模物件は事前に当社で購入することを約束した上で再開発の計画に入れてもらいました。

その他、当社の事業として、様々な分野の企業を巻き込んで2020年7月に立ち上げた錦二丁目のエリアプラットフォーム「エヌツーラボ」では、参加型・実験型のまちづくりを進めています。まちを一つの実験場に見立て、新しい技術を活用した屋上菜園「ゑびす菜園」を展開したり、企業が新しく開発したアプリの実証に協力したりしています。

まちづくりを自分ごと化し、
より良いまちづくりに
つなげていく

最近では他の地域の方から、まちづくりに協力してもらえないかと声を掛けていただく機会も増えていますが、できるのはアドバイスや、経験を伝えることくらいです。なぜなら、まちづくりは地域住民で考え、地域住民の手で良くしていくことと継続的に取り組むことが重要だからです。「この事業は俺が実現させた」「あの取り組みに私が携わった」など、自分ごと化する人が多ければ多いほど、まちづくりは成功すると思います。当社も引き続き錦二丁目地区のまちづくりに注力し、そこで暮らす人たちにどうして、都市部にあっても「ふるさと」と思ってもらえるようなまちにしたいですね。